コープしがは、正直に「くらしの安心とぬくもり」を提供します。そして人のつながりとびわ湖を大切にする心を育みます。

「スパイラル」はコープしがのシンボルマーク。
巻貝・波紋・風などの自然を象徴し、さらに求心と拡大、進化の奇跡などの発展を表しています。

日頃より、コープしがの事業と活動を支えていただき誠にありがとうございます。

1970年代にコープしがの前身である４つの地域生協が滋賀県に誕生しました。環境汚染、公害、有害食品の氾濫など、高度経済成長のひずみの中、ひとり一人がお金を出し合い、自分たちの力を合わせて生活協同組合をつくり、有害添加物の排除や琵琶湖を守るせっけん運動、生産者との顔の見える産直の関係を積み重ねてきました。その思いは今でも継承しています。

いま、行き過ぎた資本主義や地域コミュニティの崩壊などが社会問題になる中で、あらためて協同組合の存在価値が高まっています。

協同組合は、近代化や産業化のなかで取り残された個人や農民、労働者などが集まって、くらしを守るため、生活物資の共同購入や購買、医療、共済などを協同で行う協同組合として生まれてきました。ともに相互扶助の原理で資本主義に対抗する仕組みとして発展してきました。

国連が2012年を国際協同組合年とすることを決めたことも、2016年にユネスコが協同組合を「無形文化遺産」に登録したのも、協同組合がもたらす社会経済的発展への貢献が国際的に認められた証で、特に協同組合が貧困削減・仕事の創出・社会的統合に果たす役割が着目されたものです。

国連が定めた「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けて、協同組合への期待も高まっています。倫理的な消費を促すエシカル消費とともに、SDGsに関わる取り組みは、わたしたちコープしががこれまで進めてきたことです。

生産と消費をつなぐ産直・地産地消の取り組み、環境保全の取り組み、飢餓と貧困から子どもを守るユニセフ活動等、５つのたいせつの取り組みを通してさらに広げて参ります。

人の組織としての協同組合は、組合員がくらす地域に活動を広げ、コミュニティをつくり、助け合い、さらに環境にも配慮したくらしを共有できる存在になり得ます。一人ひとりの組合員が、くらしを通じて地域全体のことを考える。だからこそより良い地域を創造することができます。

みんなが力を合わせてささえあい、助け合い、共に生きる時代。誰一人取り残さず、安心してくらし続けられる地域社会づくり、対立と分断の競争ではなく、より良い社会を築く協同・共生社会を築いていきましょう。

2019年６月
生活協同組合コープしが
理事長　西山　実

INDEX

生協とは……………………… 3
　生協とは
　コーポレートガバナンス
　事業概要
組合員の声を聴いて………… 5
想いをカタチに（事業）…… 7
共に学び続ける……………… 9
　たべるたいせつ
　びわこたいせつ
　くらしたいせつ
　いのちたいせつ
　ちいきたいせつ
つながり………………………13
笑顔あふれる未来のために…15
　コープしがの新たな挑戦
　働きがいのある職場づくり
事業活動における環境報告…17

コープしがとSDGs

SDGsのめざすものは、コープしがが長年めざしてきた「協同して創ろう、笑顔あふれるくらし」のゴールと同じです。

くらしの営みは、ずっと続きます。私たちが安心して暮らすことを当たり前の価値として取り組んでいる多くの事業や活動は、SDGsの17の目標と何らかの関わりがあります。

また、私たちが安心して暮らすために、小さな「私にできるコト」を積み重ね、寄せ合って大きな力になるのが生協です。

コープしがは、人が大切にされ誰もが安心して笑顔で暮らせる社会をめざして、組合員、役職員、地域の人々と力を合わせていきます。